

ドリーム通信

2018年
3月13日発行
第89号

山形県スポーツalent
発掘事業実行委員会

世界に挑戦し続ける決意を胸に！！

YAMAGATA ドリームキッズ認定証交付式・修了証授与式

去る、2月10日（土）に寒河江市市民文化会館において、第9期生・新加入生の認定証交付式、第4期生の修了証授与式が行われました。来賓として、日本スポーツ振興センター山下修平様、ロンドン・リオデジャネイロ五輪ウエイトリフティング日本代表八木かなえ様、本県出身北京五輪陸上競技日本代表安孫子充裕様をお招きし、さらには多くの関係者のご臨席のもと開催されました。認定証と修了証は、廣瀬渉実行委員会副会長より一人一人に手渡され、認定者を代表して9期生荒木結心さん、修了生である4期生は全員が決意表明を行いました。修了生と新加入生の今後の活躍に大いに期待したいと思います。



式に先立ち行われた、ドリームキッズ表彰受賞者は下記のとおりです。
受賞おめでとうございます。

- <栄 誉 賞> 佐藤 琳（4期生）
- <優 秀 賞> 工藤 椰己（4期生）、伊藤 康太（5期生）、井上 雄斗（7期生）
鎌上 将大（4期生）、戸田萌々香（5期生）
- <育成委員長賞> 鈴木 陽蘭（4期生）、高橋 夢華（4期生）、中條扇之介（4期生）
中村 海翔（4期生）、村上 健太（4期生）、渡辺 奈南（4期生）
赤塚 紗夕（7期生）、佐藤 隆晴（7期生）、八重樫鉄馬（7期生）
- <育成委員長奨励賞> 鏡 愛（6期生）、和田 乙希（6期生）

適性競技種目選択と競技力向上を目指して ～競技団体による各種プログラムに参加して～

今年度は、17の競技団体から協力を得て各種プログラムを行うことができました。プログラムの目的の1つ目は、競技種目の運動特性に触れ楽しむとともに適性を見極めること、2つ目は、競技力を向上させることです。キッズの中には、練習を積み大会で好成績を収めるキッズも出てきました。全員参加のキャンプとは違い、自ら行動を起こすことが大切です。来年度も挑戦する気持ちを忘れず取り組んでほしいと思います。

※参加したキッズの感想より～

<カヌープログラム>

私がカヌープログラムに参加しようと思ったのは、トライアウトで高評価をいただいたからです。最初、レジャー艇で練習し、慣れてきたらレーシング艇に挑戦しました。バランスを取るの大変だったけど、こげるようになったら楽しくなりました。私はこのプログラムを通して、もっとカヌーを知りたいと思い、中学校からはカヌーをし、いろいろな大会で活躍したいです。（7期生女子）



<ウエイトリフティングプログラム>

私はキッズキャンプで初めてウエイトリフティングを体験し、その時楽しいと思ったので、競技団体プログラムに参加しました。細かいところまで指導していただき、初めは重いと思っていた重量が少しずつ持てるようになったときは、爽快感や達成感がありました。今までやってきた陸上と両立していくのは大変かもしれませんが、大きな大会で入賞を狙っていきよう、これからも頑張っていきたいです。（7期生女子）

<ボクシングプログラム>

僕はトライアウトで評価の高かったボクシングの競技団体プログラムに参加しました。月2回参加しているうちに、自分の強みである瞬発力やパワーがいかせると感じ、ボクシングに種目転向しました。現在は部活動と両立させながら週4回ジムに通い、自宅練習もしています。アンダージュニア東北大会では2位で悔しい思いをしましたが、今年は全国大会出場を目標に日々努力して強くなりたいです。（6期生男子）



～修了生の活躍から学ぶII 冬季競技～

いからししの
五十嵐紫乃（1期生）「スキー競技」インターハイ回転第6位、国体少年女子大回転第6位入賞



私は「何事も真剣に考えて挑戦する」ということをテーマに3年間取り組み組んできましたが、思うようにいかないことや結果を出せず苦しい時期が多々ありました。それでも親身になって指導して下さる先生やコーチ、どんどん速くなるライバルやいつも私を信じ応援してくれる家族がいたことが原動力となり、3年間頑張ることができました。「挑戦する」ことを実践し続けることはとても難しく、それに伴いリスクも増えます。それでもリスクを恐れず立ち向かうことが必要だと気づくことができました。私は大学でも競技を続けますが、高校以上に厳しい状況に直面すると思います。そのような中でも周りへの感謝を忘れず挑戦し続けたいです。



一問合わせ先
山形県スポーツalent発掘事業実行委員会事務局
990-2412 山形市松山二丁目11番30号
TEL:023-615-6415 FAX:023-615-7933
ホームページ: <http://y-dreamkids.jp/>